

(別紙様式 3)

農業農村整備事業等事後評価地区別結果書

局	名	関	東	農	政	局
---	---	---	---	---	---	---

都道府県名	山梨県	関係市町村名	こうしゅうし えんざんし かつぬまちょう 甲州市 (旧塩山市、旧勝沼町)
事業名	田園空間整備事業	地区名	えんざんかつぬま 塩山勝沼
事業主体名	山梨県	事業完了年度	平成17年度

〔事業内容〕

事業目的：本地区は戦国時代から交通の要所として栄え多くの史跡が残っているとともに、稲作のほかに養蚕及び果樹栽培が発展し、数多くの農業に関する施設が存在している。

一方、地域の発展を支えてきた農業関係施設は老朽化が激しく、また、施設へのアクセスが悪いことから住民や来訪者にあまり知られていないのが現状である。

このため、広域で連携して本事業を実施することにより、広がり的魅力ある「田園空間博物館」の取組を進めるために農村空間の整備を行い、首都圏との交流の拡大による新しい交流型農業を展開して地域の活性化を図る。

計画区域面積：22,128ha

総人口：36,779人（うち農家人口：14,664人）

農家戸数：3,569戸

主要工事：集落道整備 0.4km、水辺環境整備 0.2km、コミュニティ施設整備 2箇所、景観保全整備（歴史的建造物の修復・保全）3箇所、景観保全整備（案内板、道標設置）1式、遊歩道整備 3.0km、特認施設 1箇所

総事業費：1,153百万円

工期：平成12年度～平成17年度

関連事業：田園空間型グリーンツーリズム整備事業（平成10年度）

〔項目〕

ア 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化
該当なし

イ 事業効果の発現状況

1 事業の目的に関する事項

- 歴史的な農業関係施設の修復を図るとともに、遊歩道の整備と案内板の設置により、本地区の農村景観と数多く残る史跡や農業関係施設などが有機的に結ばれ、豊かな田園空間の創造に寄与するとともに、本地域を訪れる来訪者に効果的な情報発信ができるようになり、都市と農村の交流促進や地域活性化へ寄与している。

「本地区の来訪者数」（評価時点資料：山梨県観光客動態調査）

年 度	平成17	平成18	平成19	平成20	平成21
来訪者数（千人）	2,168	2,215	2,693	2,378	2,310

「コミュニティ施設（繭集出荷所）の来訪者数」（評価時点資料：市聞き取り）

年 度	平成17	平成18	平成19	平成20	平成21	平成22
来訪者数（人）	999	1,083	2,003	3,104	2,437	2,304

- ・ 本地域の農業・産業の歴史上重要な施設の修復を行ったことにより、本地域の伝統文化の維持・保全が可能となった。
- ・ 繭集出荷所（旧田中銀行）の修復を行ったことにより、地域住民が「旧田中銀行友の会」を発足し維持管理や観光案内を行うなど、地域活性化が促進されるとともに、地域住民の文化財保存の意識向上も図られている。
- ・ 本事業を契機として、甲州市は平成17年9月26日に景観行政団体として山梨県から指定されており、地域住民の景観に対する意識の向上も図られている。

2 土地改良長期計画における施策と目指す成果の確認

【田園環境の再生・創造と共生・循環を活かした個性豊かで活力ある農村づくり】

地域の合意形成のもと、地域の伝統、文化、景観等の保全・復元等に係る整備を実施したことにより、自然や景観と農業生産が調和したゆとりある田園空間の創造が図られた。

3 その他

- ・ 本事業を機に、甲州市は地区内のウォーキング事業を展開している。平成19年度からは、地域住民により発足した「かつめまフットパスの会」と連携した「フットパス祭り・ガイドツアー」等を開催し、ウォーキングに合わせて地元食材を活用した飲食物の提供や農家との交流も行うなど、都市住民と地元農家との交流促進が図られている。
 なお、甲州市は平成20年3月に策定した「甲州市第一次総合計画」において、ウォーキングによる交流促進を同市における新たな観光特性として位置づけている。

ウ 事業により整備された施設の管理状況

- ・ 本事業により整備された各施設は甲州市により適正に維持管理されている。
- ・ 繭集出荷所（旧田中銀行）については、地域住民から構成される「旧田中銀行友の会」により、適切に維持管理が行われている。
- ・ 整備された遊歩道については、地元自治会等により花植え等が行われ良好な農村景観が維持されている。

エ 事業実施による環境の変化

1 生活環境

- ・ コミュニティー施設が整備されたことにより、地域住民が自発的に施設の維持・管理を行う組織をつくり、交流の場として利用されている。

2 自然環境

- ・ 農業用関係施設の保全・修復が行われ、農村景観の保全に寄与している。
- ・ 新たに整備された遊歩道について周辺景観との調和が図られており、美しい農村景観の創造に寄与している。

オ 社会経済情勢の変化

1 社会情勢の変化

- ・ 甲州市は平成17年11月1日、旧塩山市、勝沼町及び大和村が合併して発足した。甲州市の人口は事業実施前（平成7年 旧塩山市・勝沼町及び大和村の人口の総計）から、評価時点に比べて人口で10.7%、世帯数で0.3%と減少している。

【甲州市の人口・総世帯数】（資料：国勢調査）

平成7年	平成17年	平成22年
総人口：38,046人	→ 35,922人	→ 33,947人
総世帯数：11,618世帯	→ 11,666世帯	→ 11,583世帯

2 地域農業の動向

- ・ 甲州市の農家戸数は、事業実施前（平成7年 旧塩山市・勝沼町及び大和村の農家戸数の総計）から、評価時点に比べて農家戸数が20.4%減少している。

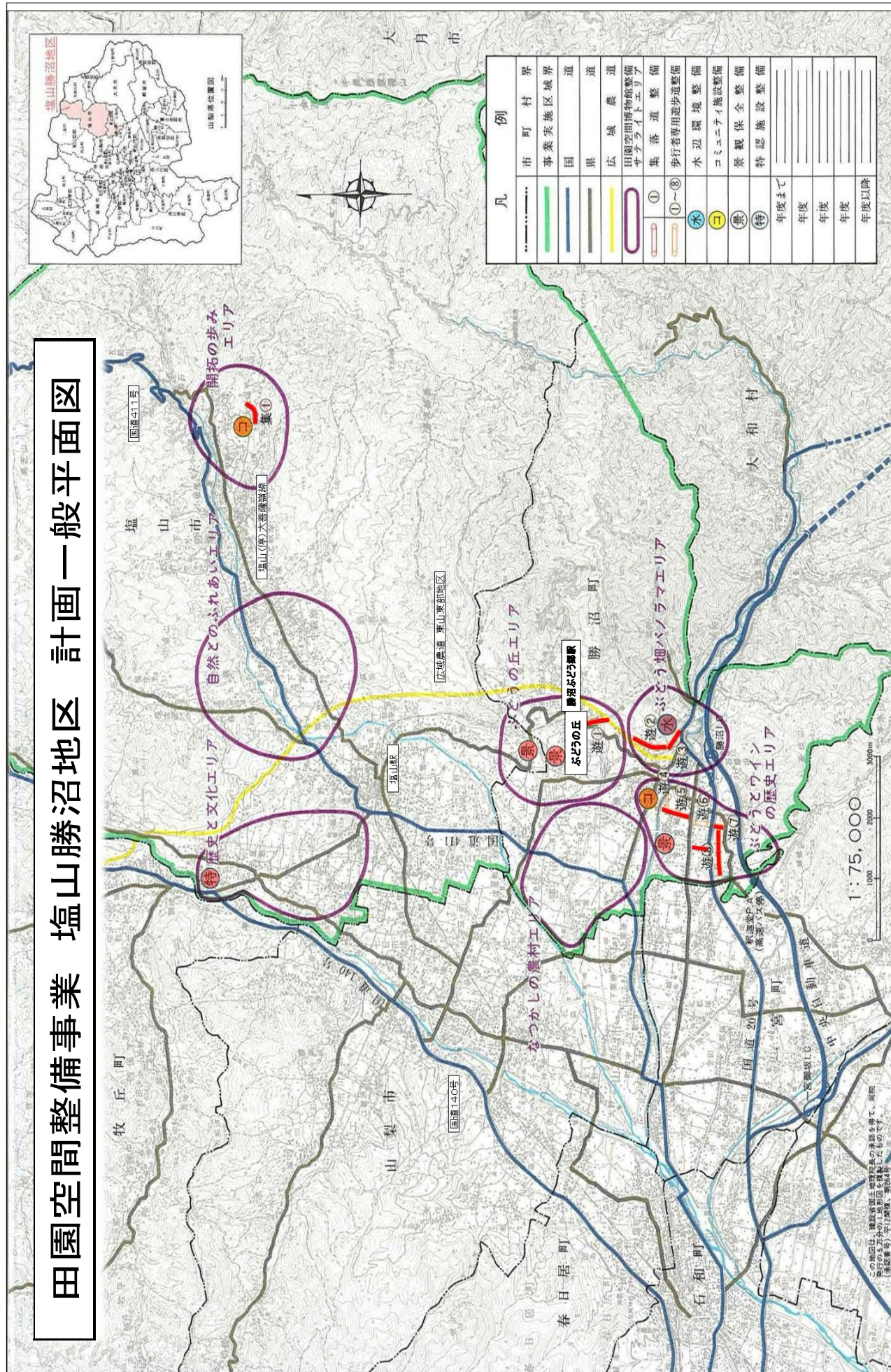
【甲州市の農家戸数】

平成7年	平成17年	平成22年（資料：農業センサス）
農家戸数：3,762戸	→ 3,197戸	→ 2,995戸

カ 今後の課題等

- ・ 本事業において、美しい農村景観の保全及び歴史的な農業施設や修復等を実施したことにより、農村の有する豊かな自然、伝統、文化等の多面的機能の増進に寄与し、また、都市と農村の交流や地域活性化にも資することができた。
- ・ 本地区における「田園空間博物館」の取組を今後更に発展させていくために、本事業で整備を行った各施設等の適切な維持・管理や地域住民が主体となった景観保全活動をととして、本事業で整備された農村空間の維持・増進を図っていく必要がある。

事後評価結果	・ 本事業の実施により「田園空間博物館」の取組が開始され、本地域の都市と農村の交流促進や地域活性化に寄与している。 ・ 歴史的な農業関係施設の修復により、本地域の伝統文化の維持保全、農村景観の保全に寄与している。 ・ 本事業を契機として、地域住民の文化財保存及び景観に対する意識の向上が図られている。 ・ 適切な維持管理や地域住民が主体となった景観保全活動をととして、本事業で整備された農村空間の維持増進を図っていく必要がある。
第三者の意見	・ 事業実施により、地域資源を活かした都市との交流による地域の活性化、伝統文化及び農村景観の維持保全が図られており、これからの農村地帯のあり方を考えていく上でも重要な取組事例となっている。 ・ 今後は、維持管理主体や地域住民が一体となった景観保全活動と一層の意識の向上により、本事業で整備した農村空間を維持増進していくことが望まれる。



(別紙様式 3)

農業農村整備事業等事後評価地区別結果書

局 名	北陸農政局
-----	-------

都道府県名	富山県	関係市町村名	砺波市(旧砺波市、旧東礪波郡庄川町)、南砺市(旧東礪波郡井波町、旧東礪波郡福野町、旧西礪波郡福光町、旧東礪波郡城端町、旧東礪波郡井口村)
事業名	田園整備事業	地区名	となみ野
事業主体名	富山県、砺波市、南砺市	事業完了年度	平成17年度

〔事業内容〕

事業目的： 本地区は、富山県の南西部に位置しており、となみ野における散居景観の保全を図ると共に、交流基盤整備を実施し、地域資源を活用した魅力ある田園空間の保全と創出により都市との共生を図るものである。

計画区域：面積12,216ha

主要工事：農業集落道370m、農村公園緑地整備1箇所、集落水辺環境整備1箇所、集落緑化施設整備2箇所、コミュニティ施設4箇所、景観保全整備1箇所、遊歩道2,184m

総事業費：2,248百万円

工 期：平成10年度～平成17年度（最終計画変更：平成17年度）

〔項 目〕

ア 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化
該当なし

イ 事業効果の発現状況

1 事業の目的に関する事項

① 農村田園景観等の保全

- ・ 砺波市のコミュニティ施設「となみ野散居村ミュージアム」で、年に10回程度開催される「となみ野散居村学習講座」等の取り組みにより、地域住民の散居景観保全に対する認識を深めた結果、平成20年度に砺波市が実施した散居景観に関するアンケートでは、その約7割の方が「散居景観を後世に引き継ぐべき」と回答しており、景観保全の必要性について理解を示している。

また、散居景観の重要な構成物である「屋敷林」の保全のため地域住民自らによる屋敷林の保全に取り組むための住民協定「散居景観活かした地域づくり協定」の締結が進んでいる。

	対象集落数	締結集落数	締結率(H22年度)
砺波市	164	93	57%
南砺市	172	119	69%

(出典：砺波市、南砺市調べ)

② 都市と農村の共生による地域の活性化

- ・ 「となみ野散居村ミュージアム」では、散居村に関する写真コンテストや学習講座等の各種イベントやパネル展示等を通じ都市住民との交流が盛んに行われている。
- ・ 南砺市のコミュニティ施設「あずまだち高瀬」では、屋敷林の手入れ講習会や、農

村公園緑地整備として整備した「いのくち^{つばきかん} 椿館」でのいのくち椿祭りや苗木接木等育成講習会を通じ、都市住民との交流を図っている。

- また、桜ヶ池^{さくらが いけ}では遊歩道を整備したことにより、動植物の観察に都市住民が訪れているほか、ウォータースポーツ体験会等の実施により都市住民との交流が図られている。これら本事業により整備した施設により魅力ある田園空間の創出がなされ、都市との共生が図られている。

(出典：砺波市、南砺市聞き取りによる)

- 本事業で整備した施設の来訪者数は増加している。

H18年度	→	H22年度
61,195人		64,300人

(出典：砺波市、南砺市調べ)

2 土地改良長期計画における施策と目指す成果

「個性豊かで活力ある農村づくり」

整備した施設は、地域住民の生活環境の向上や潤いを与えるとともに地域の多彩なイベント等が実施され地域住民のみならず都市住民との交流を図りつつ、景観保全に対する関心を高めることに寄与している。

ウ 事業により整備された施設の管理状況

県で整備された施設「となみ野散居村ミュージアム」等は砺波市に譲与され、現在、砺波市で適切に管理されている。

また、二万石用水親水空間散策路^{に まんごく}（集落水辺環境整備）についても砺波市が適切に管理している。

南砺市で整備された農村公園や遊歩道、散策路（景観保全整備）については、南砺市が適切に管理している。

エ 事業実施による環境の変化

1 生活環境

従前から地域内で開催されているチューリップフェアだけでなく、本事業で整備した施設を活用し、年間を通じた都市農村交流の取り組みにより地域が活性化している。

また、「となみ野散居村ミュージアム」における学習講座の実施等により、失いつつある散居景観を保全していこうとする気運が高まっている。

2 自然環境

景観保全整備として「安居大堤^{やすいおおづつみ}」において散策路を整備し、絶滅危惧種であるホクリクサンショウウオ等の保護や自然環境保全に関する学習の場として利用されている。

オ 社会経済情勢の変化

1 社会情勢の変化

地区全体の人口は、平成12年から平成22年までの減少率は2.9%となっており、富山県全体の減少率2.5%と比較して高い減少率となっている。

	H12年	→	H22年	増減率
となみ野地区	104,778人		101,702人	△2.9%
富山県	1,120,851人		1,093,247人	△2.5%

(出典：国勢調査)

2 地域農業の動向

地区全体の農家戸数は、平成12年から平成22年までの減少率は46.8%となっており、富山県全体の44.3%と比較して高い減少率となっている。

	H12年	→	H22年	増減率
となみ野地区	6,613戸		3,517戸	△46.8%
富山県	39,397戸		21,914戸	△44.3%

(出典：農林業センサス)

カ 今後の課題等

砺波市、南砺市を中心に広がるとなみ野地域の散居景観を形成している屋敷林に対する保全意識が、農業の経営形態や生活様式の変化などによって以前と比べ薄れており、高齢化等の進行に伴い、働き手のいない農家では屋敷林を伐採するケースなども見られるようになってきている。そこで、屋敷林を保全するため、地域住民が共同で保全していく住民協定の締結がなされていない地区を中心に、今後さらに締結率を上げていくよう努めていく必要がある。

砺波市では、現在、景観法に規定する景観計画を策定しているところであり、散居景観を保

全していくための各種規制と地域住民の意向とが上手く調和できるように作り上げていくことが重要である。	
事 後 評 価 結 果	・ 地域ごとの核となるコミュニティ施設を中心に、地域資源を活用した地域住民が主体となったイベントを通じて都市住民との交流が盛んに行われている。これらの取り組みが地域の活性化に寄与しており、事業の有効性が認められる。 ・ 今後、となみ野の農村地域における散居景観を形成している屋敷林の保全のための住民協定の締結率をさらに向上させていくよう努めていき、魅力ある田園空間の保全と創出による都市との共生を図っていくことが重要である。
第 三 者 の 意 見	・ 本事業の実施を通じて、コミュニティー施設を中心に、多彩なイベント等が実施され、散居景観の保全意識の向上や都市住民との交流が図られるなど、地域の活性化に寄与している効果が確認された。 ・ 今後は、実際に散居村の景観が維持されるよう住民協定等の締結や景観計画の実行に努力する必要がある。

農業農村整備事業等事後評価地区別結果書

局	名	中国四国農政局
---	---	---------

都道府県名	香川県	関係市町村名	さぬき市（旧志度町 ^{しどちよう} ）
事業名	田園空間整備事業	地区名	志度 ^{しど}
事業主体名	香川県	事業完了年度	平成17年度

〔事業内容〕

事業目的：本地区は、伝統的な技術である石積み、石張工法で造られた歴史的なため池があり、また、石積水路も多く見られるなど特徴のある農村景観を有していた。このため、本事業により、ため池の水辺環境の整備など農村景観の保全・復元に配慮した整備を実施し、田園空間の保全・形成と農村地域の活性化を図ることを目的とする。

受益面積：87.3ha

受益者数：362戸

主要工事：区画整理11.5ha、農業用排水路2.2km※[改良1.0km]、ため池6箇所※[改良6箇所]、農道0.7km※[改良0.7km]、集落排水0.5km、水辺環境整備1箇所、用地整備1箇所（8,700㎡、コミュニティ施設1箇所（150㎡）、集落緑化施設1箇所（3,960㎡）※印以外は全て新設

総事業費：1,272百万円（決算ベース）

工期：平成10年度～平成17年度（最終計画変更年度：平成15年度）

関連事業：田園交流基盤整備事業「大井長浜地区」（平成11年度～平成17年度）

〔項目〕

ア 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

1 農作物の生産量の変化

- ・ 水稻の作付面積は、米の需給調整等を理由として計画よりも減少している。
- ・ 計画では裏作として小麦やだいこん等を作付することとしていたが、さぬき市の推進作物の一つであるブロッコリーの作付が増えている。

○ 作付面積（長浜工区、上の坊工区の計（※））

（単位：ha）

作物	事業実施前 (H9)	計画	評価時点
水 稻	7.0	6.4	6.2
キュウリ	0.3	1.4	0.4
ね ぎ	1.8	1.0	—
トマト	0.6	1.8	0.6
小麦（裏作）	1.0	1.0	0.5
馬鈴薯（裏作）	0.8	1.0	—
だいこん（裏作）	1.0	1.2	—
オクラ	—	—	0.5
大 豆	—	—	0.3
ブロッコリー（裏作）	—	—	1.0

※ 長浜工区、上の坊工区：志度地区でほ場整備を行った工区

（注）評価時点については、平成22年のデータを使用している。

（出典：事業計画書、さぬき市からの聞き取り）

2 営農経費の節減に関する項目

① 労働時間

- ・ 事業実施前のほ場区画は狭小で、農道も十分な幅員がなく農作業に多くの労働時間を要していたが、ほ場区画の拡大、農業用水路のパイプライン化、農道の拡幅などにより作業環境が改善し、労働時間の短縮に寄与している。

- ほ場平均区画 事業実施前(H9) 3～5 a → 評価時点 30～50 a
 - 農業幅員 事業実施前(H9) 2 m → 評価時点 4～5 m
 - 農業用水路 事業実施前(H9) 土水路 → 評価時点 パイプライン
 - 農業用排水路 事業実施前(H9) 土水路 → 評価時点 コンクリート(石張り)
- (出典：事業計画書、さぬき市からの聞き取り)

② その他（農業機械の所有状況）

- ・ トラクターの15PS未満の全体に占める割合は減少し、15PS～30PS、30PS以上の大型機械の割合が増加している。

○ 農業機械の所有状況

トラクター

15PS未満	H7	207台(31%)	→	H17	164台(25%)
15PS～30PS	H7	444台(66%)	→	H17	467台(72%)
30PS以上	H7	19台(3%)	→	H17	21台(3%)
自脱型コンバイン	H7	501台	→	H17	499台

(出典：農林業センサス「旧志度町」)

イ 事業効果の発現状況

1 事業の目的に関する事項

① 農村地域の活性化

- ・ 平成22年の交流人口は、平成21年に比べると3,902人増加した。

【コミュニティ施設等の利用状況】(地域内、外)

H21 44,084人 → H22 47,986人(3,902人増)

(出典：さぬき市からの聞き取り)

② 農業生産活動条件の改善

- ・ 農道の整備により、大型の運搬車両の通行が可能となるとともに、農作業の時間短縮が可能となった。
- ・ 農業用水路のパイプライン化により、営農者は各ほ場の給水栓の操作だけで容易に給水が可能となるなど水管理の負担が大きく軽減されている。このため、営農者の子息が農業を手伝ってくれるようになった事例もあるなど、後継者の確保に期待が持てるようになっている。

(出典：さぬき市からの聞き取り)

③ 地域の生活環境の向上

- ・ 集落排水路の暗渠化により、衛生面が改善されるとともに、道路が拡幅（集落排水路分）され、利便性・安全性が向上している。
- ・ 農道の整備により、通勤路の確保や緊急車両の進入が可能となるなど、地域住民の日常生活における利便性、安全性の向上に寄与している。また、道路で結ばれた地域住民同士の往来がしやすくなり、地域間のつながりが強くなっている。
- ・ ため池の周りに整備した遊歩道や東屋などの水辺環境施設は、子供達の遊び場、健康ウォーキングなど住民の憩いの場として農業者をはじめ多くの地域住民に利用されており、活力ある農村地域の形成に寄与している。

(出典：さぬき市からの聞き取り)

2 土地改良長期計画における施策と目指す成果等の確認

① 田園環境の再生・創造と共生・循環を活かした個性豊かで活力ある農村づくり

- ・ 志度地区は、豊かな自然、豊かな農村景観を有している地域であり、その特色を活かした整備を実施したことにより、地域交流、都市と農村との交流が行われており、農村地域の活性化に寄与している。

(出典：さぬき市からの聞き取り)

3 その他

- ・ 農業用水路については、開水路をパイプラインに整備したことにより、泥上げや草刈り等の作業が軽減されるなど維持管理労力が軽減されている。

(出典：さぬき市からの聞き取り)

ウ 事業により整備された施設の管理状況

- 各施設は以下のとおり適切に管理されている。

施設名	管理主体	管理状況
農業用排水施設 (用・排水路)	土地改良区 (水利組合)	・泥上げ、草刈を年1回程度実施。 ・通常の維持管理は地元住民が実施。
農業用排水施設 (ため池)	土地改良区 (水利組合)	・草刈を年2回程度実施。
農道	土地改良区	・通常の維持管理は、さぬき市が実施。 ・草刈を年1回実施。
農業集落排水	土地改良区	・泥上げ、草刈を年1回程度実施。 ・通常の維持管理は地元住民が実施。
水辺環境施設	さぬき市	・通常の維持管理は、大井水利組合が実施。 ・草刈を年3回程度実施。
コミュニティ施設	さぬき市	・通常の維持管理は、さぬき市社会福祉協議会がさぬき市から管理委託を受け実施。 ・維持管理に要する費用はさぬき市が負担。
集落緑化施設	さぬき市	・通常の維持管理は、第三セクターであるさぬきワイナリーが実施。

(出典：さぬき市からの聞き取り)

エ 事業実施による環境の変化

1 生活環境

- 生活環境基盤の整備により、日常生活における利便性、安全性が向上した。

(出典：さぬき市からの聞き取り)

2 自然環境

- 自然環境に特筆すべき変化は確認されていない。

(出典：さぬき市からの聞き取り)

オ 社会経済情勢の変化

1 社会情勢の変化

- 平成14年4月1日に5町が合併し、さぬき市となっている。
- 旧志度町内では、過疎化、高齢化が進んでおり第1次、第2次産業の就業人口は大きく減少してきている。

○ 産業別就業人口

(単位：人、%)

	年 次	産業別就業人口		
		第1次	第2次	第3次
旧志度町	H7 ①	1,014	3,379	7,042
	H17 ②	802	2,730	6,863
	比率 ②/①	79.1	80.8	97.5
さぬき市 (旧津田町・大川町・志度町・寒川町・長尾町)	H7 ①	3,090	10,009	16,151
	H17 ②	2,476	7,651	16,522
	比率 ②/①	80.1	76.4	103.3
香川県	H7 ①	45,207	163,203	318,891
	H17 ②	35,086	130,359	321,005
	比率 ②/①	77.6	79.9	100.7

(出典：国勢調査)

- 香川県、さぬき市とも人口は減少傾向にある。

○ 人口の動向

(単位：人、%)

年 次	旧志度町		さぬき市		香川県	
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数
H7 ①	23,323	11,443	58,390	29,671	1,027,066	346,078
H17 ②	22,406	9,016	55,754	20,046	1,012,261	377,364
減少率②/①	96.1	78.8	95.5	67.6	98.6	100.9

(出典：国勢調査)

2 地域農業の動向

- ・ 農地面積：県全体の減少率に比べ、小幅な減少となっている。
- ・ 農家数：県全体の減少率に比べ、小幅な減少となっている。
- ・ 農業就業人口：県全体に比べ、小幅な減少となっている。
- ・ 就業者高齢化率：県全体に比べ、若干、高齢化が進行している。
- ・ 生産組織：認定農業者は増加傾向にある。

○ 農地面積、農家数、農業就業人口、就業者高齢化率の推移（単位：ha、戸、人、％）

	年 次	農地面積 (販売農家)	農家数 (販売農家)	農業就業人口 (販売農家)	就業者高齢 化率
旧志度町	H7 ①	563	784	1,112	54.5
	H22 ②	474	592	793	76.2
	比率 ②/①	84.2	75.5	71.3	—
香川県	H7 ①	28,823	40,099	57,641	54.5
	H22 ②	19,778	24,936	35,317	71.3
	比率 ②/①	68.6	62.2	61.3	—

※ 就業者高齢化率は、平成7年は総農家、平成22年は販売農家のデータ
(出典：農林業センサス)

○ 生産組織及び担い手の推移（単位：組織、人％）

	年 次	法人数	認定農業者数	新規就農者数 (H7からの累計)
旧志度町	H7 ①	—	0	—
	H22 ②	1	19	—
	比率 ②/①	皆増	皆増	—
香川県	H7 ①	30	29	20
	H22 ②	143	1,708	568
	比率 ②/①	477	5,890	2,840

※ 法人数は、農事組合法人及び会社法人の合計
(出典：香川県・さぬき市からの聞き取り)

カ 今後の課題等

- ・ 地域の歴史や文化に触れる体験学習の場として、伝統的な技術である石積み等により造られた歴史的なため池等を活用するよう地元の小学校に働きかけるなど、地域住民の利用拡大を図っていく必要がある。
- ・ 高齢化による農業従事者の減少により、施設の維持管理が困難となってきたことから、今後は、「農地・水・環境保全向上対策」などの助成制度を活用し、地域住民による施設の維持管理を図っていく必要がある。

事後評価結果	・ ほ場や農道の整備、農業用水のパイプライン化などにより、機械の大型化や維持管理の労力が軽減されたことにより、営農条件が改善された。 ・ 農村景観の保全・復元に配慮した整備を実施したことにより、都市と農村との交流が促進され、農村地域の活性化に寄与している。
第三者の意見	・ 特に意見なし。

田園空間整備事業 志度地区 全体計画図

